

郡山城〈前編〉

《吉田町吉田》

編集後記

ついでの間「はやし田」の取材をし、田植えをしたばかりの景色を眺めていたのに、8月5日の今では田んぼは青々としています。本時に時が経つのは早いですが、折、良い風が田んぼを通り抜ける、青い稲穂が風にゆらゆらと揺れて、「風の足跡」を見る事ができます。この号が出る頃、その田んぼも金色へと色変わりしていきますね。無事、稲刈りが終わりますように…… (原田)

7月に開催された神楽甲子園。高校生たちの熱演はもちろん、25日(土)の夕方からは市内各地で行われた夏祭りの神楽上演もあり、たくさん写真撮ってしまいました。神楽を見すぎて疲れてしまいかと思いきや、終わってみると、全国各地、そして安芸高田市の神楽を堪能することができ、神楽のおもしろさを発見することができた一日となりました。(田村)

今月の表紙

7月25日(土)、26日(日)に開催された「第5回高校生の神楽甲子園 ひろしま安芸高田」。全国各地から集まった高校生たちの舞が安芸高田市の夏をより一層熱くしてくれました(表紙掲載高校・上演演目…(右)上から時計回りに・矢上高校「土蜘蛛」、江津高校「道返し」、浜田商業高校「頼政」、可部高校「山姥」、高梁城南高校「猿田彦の舞」、吉田高校「滝夜叉姫」)。

【登城ガイド】
標高/390m、比高/190m
史跡指定/国指定史跡
城主/毛利氏
所要時間/郡山公園から徒歩30分



郡山城測量図(「史跡毛利氏城跡保存管理計画策定報告書」より)

立地：可愛川と多治比川の合流点に広がる吉田盆地の北端、郡山山頂を中心に東西1.1km、南北0.9kmの範囲に広がる、巨大な山城です。古代よりこの山麓には高宮郡衙(役所)があり、政治・経済的に中心地でした。さらに築城前から山中には満願寺、山麓には祇園社清神社)があり、山全体が信仰対象でもありました。

歴史：本城の成立後、16世紀前半には山頂部も部分的に利用されていたと思われ、1540年の郡山合戦時はまだ本城が中心で、合戦後に郡山全山に城域が拡大されたといわれています。毛利元就が「かさ」と呼ばれた山頂部に、当主の隆元は本城(のち尾崎丸に移動)に住居し、家臣にも在城させています。元就の死後、当主となった輝元も「かさ」に住んだと考えられ、城内や城下の整備を行います。1591年に輝元は海沿いの広島城を築き移転します。その後郡山城は毛利氏の城として存在しましたが、1600年の関ヶ原合戦以後は廃城となり、1637年の島原の乱後に石垣などが大規模に破壊されました。幕末には広島吉田支藩による郡山要塞化が計画されましたが、実現には至らず明治を迎え、1940年には国指定史跡となりました。



三の丸下通路の石垣跡(南側より撮影)



郡山城遠望(南西側より撮影)

一瞬の舞いに賭ける



(今月の主な内容)

2~3 第5回高校生の神楽甲子園 ひろしま安芸高田

発行編集 安芸高田市 政策企画課 〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田791 Tel.(0826) 42-5612 Fax.(0826) 42-4376 http://www.akitakata.jp/